



レンギョウ

75 編の端書きには 指揮者によって。「滅ぼさないでください」に合わせて。賛歌。アサフの詩。歌。(1) とあり、心を一つにして歌った詩編であると思います。

詩人は冒頭で あなたに感謝をささげます。神よ、あなたに感謝をささげます。(2) と、感謝を繰り返しています。前の 74 編ではエジプト王シシャクによって、神殿が 永遠の廃墟(74:3) となったと嘆き悲しみ、不安を隠しませんでした。75 編では、全くあの時の悲嘆から解放されています。あの時に詩人は恐れて、家族、友人、知人の中に隠れて、萎縮していたかもしれませんが、希望を見出したのでしょうか。感謝のわけは、御名はわたしたちの近くにいまし／人々は驚くべき御業を物語ります。(2) と 人々 即ち、無名の民が神の名を呼び、神のこれまでの導きを思い起して、語り始めたのです。預言者ではなく、民が御業を語り

始めたと言うのです。詩人は民と一緒にいた時、互いに、聞きあい、語りあい、心が一つになり、喜び、感動し、その思いを感謝の念として、賛美の歌にして、記したいと願ったのでしょうか。

まず、第一に、わたしは必ず時を選び、公平な裁きを行う。地はそこに住むすべてのものと共に／溶け去ろうとしている。しかし、わたしは自ら地の柱を固める。[セラ (3) と、「神の時」がある。そして、「公平な裁き」が必ずあるという神の言葉を聞くのです。地とすべてのものは必ず滅びるが、神は柱を建て、地を固め、民を滅びから救われる。民にとって滅びからの脱出だった出エジプトが、「雲の柱、火の柱」に支えられ、約束の地に導かれたことは、決して忘れ得ぬことです。

次に、わたしは驕る者たちに、驕るなど言おう。逆らう者に言おう、角をそびやかすな。お前たちの角を高くそびやかすな。胸を張って断言するな。(5) と、神は驕る者をたしなめます。角を高くそびやかす、武力により民を裁き、支配するものを神は許されない。詩人は そうです、人を高く上げるものは／東からも西からも、荒れ野からも来ません。神が必ず裁きを行い／ある者を低く、ある者を高くなさるでしょう。(7) と、神のみが裁きを行うと歌います。神は すでに杯は主の御手にあり／調合された酒が泡立っています。(9) と、驕る者に対して、神はすでに裁きの準備を終えておられる。

詩人アサフは神殿に仕える人でした。神殿で民と共に祈りました。民と共にいることによって、喜びと感謝を共に体験したのです。それゆえ、身を低くして、民の一人としての視点に立っています。わたしはとこしえにこのことを語り継ぎ／ヤコブの神にほめ歌をささげます。「わたしは逆らう者の角をこごとく折り／従う者の角を高く上げる。」(11) と、神の裁きの時を信じ、待ちつつ、賛美します。

『讃美歌 21』には関連する讃美歌がありませんが、私はルターの詩による 22「深き悩みより」<https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2011-07-10> と、その変奏 [Georg Böhm - Aus tiefer Not schrei ich zu dir \(Versus II\) - Bing video](https://www.youtube.com/watch?v=HoagGPHlgoM&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=75) により 75 編を賛美します。作詞、作曲共に 16 世紀の古いものです。

ジュネーブ詩編歌はピオラ・ダ・ガンバの美しい演奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=HoagGPHlgoM&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=75>